

優秀賞（NHK 横浜放送局長賞）

「ちょっとの勇気、ちょっとの親切」

横浜市立南高等学校附属中学校 1年 ^{わたなべ}渡邊 このみ



「あなたは、困っている人を見かけた時、ほんの少しの労力や時間を使って、人助けをすることはできますか。」

この質問に「できる」と答えられる人は、どれくらいいるのでしょうか。荷物が多くて困っている人。ベビーカーを持ち上げて階段を登っている人。こんな人たちを見かけた時、

「手伝いましょうか。」

と声をかけられるのでしょうか。きっと見て見ぬふりをし、通り過ぎてしまう人が大半ではないのでしょうか。多くの人の心には、おそらく、「知らない人だし。」「自分が声をかけなくても別にいいだろう。」という気持ちがあると思います。

私は、この夏休みに美術館のワークショップのボランティアに参加しました。会場近くのバス停は日陰がなく、バスも1時間に2本しか通らない状況でした。ある日、日傘を忘れてしまった私は、汗だくになりながら、なかなか来ないバスをひたすら待っていました。すると、隣にいた女性が、

「よかったら日傘に入りませんか。熱中症も怖いですし。」

と優しく声をかけてくれました。私はとても驚きました。私は日傘に入れてもらいながら、見ず知らずの私を心配し、勇気を出して声をかけてくれたことが嬉しく、こんなに優しく親切な人がいるのかと、とても感動し、心が温くなりました。

私が参加したボランティアでも、素敵な出会いがありました。私は、ワークショップである少女に出会いました。彼女は何回絵を描いてもうまく書けず、苛立っていました。私が代わりに絵を描いてあげると、とびきりの笑顔になり、それを見ながら作品を作り上げることができました。私が描いた絵を大事そうに握りしめ、

「お姉さん、ありがとう。」

と言って会場を後にしていました。

私は2人との出会いを通じて、心を寄せ、相手を思いやる気持ちの先には、誰かの笑顔があることに気づきました。そして、その行為はささやかな気遣いと勇気であると気づかされました。だからこそ、「困っているな。」と感じたらすぐ動くようになりました。海でプラスチックの袋やごみを見つけたら、すぐに拾うようになりました。以前は、「どうせ誰かがやってくれる。」と思って

素通りしていました。しかし、もし、みんなが同じように「きっと誰かがやってくれる。」と思ってそのままにしていると、きっと海はごみだらけになります。だから、気づいた時に行動しなくてはいけないのです。誰かがちょっと心を寄せることで、助かる人がいます。その人が笑顔になります。感謝している人がきっといます。自分の行いは、どこかで誰かの役に立っているはずです。

しかし、行動する時には勇気が必要です。困っている人を見かけても、声をかけるのは誰でも躊躇するものです。私もそうでした。しかし、困っている時に人から親切にされ、助けられた経験があると、「次は自分が誰かの為に何かをしよう。」「私と同じような思いを持ってもらいたい。」と思うようになることにも気づきました。

「ボランティア」は基本的に無償の奉仕活動です。そこに、どんな価値があるのかと問われたら、私は誰かの為に行うことだけでなく、その行いは、自分の為になっていると答えます。私は、誰かを手伝った時に、感謝されると嬉しくなります。そして、自分が誰かに必要とされたと感じると、自分の存在意義を感じます。だから、報酬などの見返りがなくても、自分の心が温かなれるのです。私が参加したボランティアでは、参加者が皆、常に笑顔で、楽しそうに活動しているのがとても印象的でした。

今は、自分の為だけに時間やお金を使う人が増えていると聞きます。自分さえよければいいという考え方が広がっていった先には、冷たい社会が待っています。弱い立場にある人は、切り捨てられていくのではないのでしょうか。人は、社会の中で生き、暮らしています。様々な立場の人がいます。どんな人でも安心して暮らせる社会を目指す為には、助け合う精神が必要です。どんな人も生きていれば、必ず人と関わり、知らないところで誰かに助けをもらっています。社会の中で、人は寄り添い合って生きています。

「情けは人の為ならず」ということわざがあるように、誰かにしてあげたことは、広がり、巡って、今度は自分が助けられ、戻ってきます。その輪がどんどん広がることで、世の中は平和になり、人々が暮らしやすくなるのではないのでしょうか。そのような社会を皆で一緒に作っていきませんか。